京都精神保健福祉士協会

きょうと通信 NO.111



2015 年　8 月発行

事務局：医療法人　つばき医院内
〒602-0895　京都市上京区上御霊前町 410
TEL　075-411-1011
FAX　075-411-1020
e-mail　office@kyo-psw.org
HP　http://www.kyo-psw.org/

【9 月例会のご案内】

相談支援事業所について、見たい！知りたい！深めたい!!

講師：　竹内　美江子さん（NPO 法人洛南福祉会 JACS　相談支援事業所つなぎ）
　　宮崎　彰造さん　（医療法人社団ウエノ診療所
　　京都市北部障害者地域生活支援センターらしく）
日時：　2015 年 9 月 25 日（金）　19:00～21:00（開場：18:30）
場所：　キャンパスプラザ京都　第 1 会議室
　　〒600-8216　京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939
　　京都市営地下鉄烏丸線、近鉄京都線、JR 各線「京都駅」下車。徒歩 5 分。

申込み方法：　事前申し込み制（別紙の用紙にて、FAX でお申込みください。）
※非会員の方は、参加費 500 円をいただきます。

現在、どんどんとその数が増加している相談支援事業所。しかし、医療機関や他の福祉事業所に勤務されている方にとっては、「具体的にどんな業務をしているの？」「サービス等利用計画ってどうなっているの？」「地域移行・地域定着支援って何？」「こんなこと頼んでしまってもいいの？」など、疑問に思うことも多いのではないでしょうか？

今回は、宇治市および京都市の相談支援事業所に勤務するお二人を講師としてお招きします。また、みなさんからの質問・疑問を会場で共有して一緒に考える、今までありそうでなかったテーマの例会となっています。

相談支援事業所について知りたい方、また、実際に相談支援事業所に勤務しておられる方など、

様々な方の参加をお待ちしております!!

（研修部）

【10 月例会のご案内】

京都精神保健福祉士協会・日本精神保健福祉士協会京都府支部災害検討委員会企画

身近な災害を語るつどい
―広島から学ぶ編―

日時：　2014 年 10 月 24 日（土）14:00～16:30（13:30～受付）

場所：　京都産業会館 7 階　第 3 研修室（TEL　075-211-6301）

（市営地下鉄烏丸線「四条駅」下車 / 阪急京都線「烏丸駅」下車

徒歩約 2 分「26 番出口」より B1 階入口直結）

講師：　木村　雅昭氏

医療法人社団友和会　友和病院

広島県精神保健福祉士協会・日本精神保健福祉士協会広島県支部災害対策委員

身近な災害をテーマに、発災当時の状況や現地での取り組みについてのそれぞれの立場からのお話を伺い、また自身がそのときどうだったかなども語りながら、職能団体として災害時に取り組むべきことや、情報収集ためのネットワーク作りを目的に行ってきた「身近な災害を語るつどい」。昨年度は京都市、そして福知山市の 2 か所で開催しました。

今年度は、広島県精神保健福祉士協会の木村雅昭氏をお招きし、2014 年 8 月の広島県での土砂災害について、当時の状況や協会としての対応、感じられた課題等についてお話いただく予定です。実際の現場の状況等を伺いながら、京都での取り組みを考える機会にしたいと思います。ぜひともご参加いただきますようご案内いたします。

詳細は改めて広報いたします。

（災害支援検討委員会）

【第 15 回記念講演報告】

日時　：2015 年 5 月 24 日（日）　14:00～16:00

テーマ：当事者との協働

～「当事者」の力を活かした支援とは何か～

講師　：増川 ねてる 氏

会場　：ハートピア京都　大会議室

2015 年度総会記念講演は、精神疾患の経験を持つ当事者でありながら、地域活動支援センター

職員として働き、WRAP のファシリテーターとして全国各地での研修やワークショップ等に取り組んでおられる増川ねてる氏に講演いただきました。

増川さんご自身の今までの幼少期からの苦労や経験に始まり、壮絶な闘病生活、そして混乱の中でのソーシャルワーカーとの出会いが、その後の生活を大きく変えました。支援の手をさしのべられたことで徐々に回復しました。そのリカバリーの過程を生き生きと、また生々しく話していただきました。増川氏はリカバリーを回復する力や、夢・希望を取り戻すこと、人生に落ち込んでも戻ることができること、敗者復活ができる力と表現しておられました。その後、作業所で当事者の仲間と出会い、その活動の中で WRAP と出会いました。

ピアサポーターとは「体験者の道案内のようなもの」であり、また「口コミ」のようなものと表現されてました。そして実践の中で、ピアサポーターを含む当事者を取り巻く関係者と「協働」するにはどうしたらよいかということをフロアに投げかけられました。様々な意見が出る中で、ピアサポーターは「リカバリー」の視点を持ちながら、本人の「ストーリーに寄り添う」ことが重要である一方で、ピアサポーターとしての意識が強すぎると、当事者側に沿いすぎてしまう危険性があると話されていました。ソーシャルワーカーには専門性に基づく客観的な視点や権利擁護の視点でのサポート、また「場の開拓」ということも求められると話されていました。

「会場とのやりとりが多く聴き入る講演だった」といった感想が多くあったように、例年の講演と違い、増川氏は壇上を目まぐるしく動き回り、時にはフロアに質問を投げかけて、ホワイトボードを使いながら講演を進めていました。フロアと掛け合いながら、進めるうちに増川氏とフロアが一体となっていく雰囲気を感じずにはいられませんでした。

2 時間の講演はあっという間に過ぎてしまい、用意していただいていた資料も残念ながら最後までいかなかったものの、非常に充実した講演を体験できたことに感謝いたします。

（記念講演担当　松本裕介）

【京都精神保健福祉士協会 7 月例会報告】

『健康自己管理ワークブック』を使いこなそう～当事者のリカバリーのために～

講師：　三品　桂子さん（花園大学社会福祉学部）
日時：　2015 年 7 月 4 日（土）　13:45～16:45
場所：　京都市職員厚生会　職員会館かもがわ　大会議室
参加者数：　32 名

今回の例会では、三品桂子さんを講師にお招きして、精神障害のある人のリカバリー・ツールの１つである「健康自己管理ワークブック　－希望・選択・参加・リカバリー：WSM－」の活用方法について学びました。

まず、健康自己管理（WSM：ウェルネス・セルフ・マネジメント）やリカバリーの理念・歴史、このツールを使ったセッションの進め方について学び、その後、実際にグループセッションを体験しました。このツールではあわせて 57 課のセッションがあり、すべてを修了するのに 8 か月ほどか

かるとのことです。

そのうちの第 3 課 :「このプログラムでの自分の役割は何か？」についてロールプレイを行いました。例会参加者が 5～6 名のグループに分かれて、当事者役やリーダー役等になりセッションの進行を体験しました。セッションの進行方法自体が分からずに戸惑って四苦八苦しているグループもありましたが、「当事者のペースに配慮してセッションを進めることが大切」ということを学ぶ、とてもよい機会になったと思います。

以下、参加された方の声を紹介します。「その人に自分（支援者）以外の見方が沢山できるように関わること・相手に『弱い人だ』と思ってどんどん先回りしてやってしまわないこと・役に立った支援立たなかった支援を聞いてみること。明日から実践します。WSM を参考にして事業所のプログラムをやってみようと思います。」「講義はわかりやすかったのですが、実際にやるとなると難しいと感じました。ワークショップ実践編があればぜひ参加したいと思います。」「日本でも（京都でも！！）当事者のリカバリーを応援する支援職の方が増えてくことを願っています。」

当日の参加者は、講師の三品さんから、270 ページに及ぶワークブックのテキストを全員がいただきました。三品さん、ありがとうございました。

（研修部）

【日本精神保健福祉士協会京都府支部 総会及び座談会開催報告】

2015 年 6 月 13 日（土）、「ジョイント・ほっと」にて京都府支部総会が開催されました。 総会出席者は、議決権を持った構成員 155 名中、会場参加者が 15 名、委任状提出は 66 名で、合わせて 81 名になり、活動報告・活動計画などの議案は全て承認されました。また協会からの報告として、代議員制実施に向けて①今後のスケジュールの確認と、2016 年度以降は全国大会と学術集会の開催時期・場所がずれること等について情報を共有しました。





例年はこの後に全国大会の報告会を行っているのですが、今年は支部総会が全国大会前の開催であったこともあり、「ちょっと聴いてよ！座談会」を行いました。目まぐるしく変る法制度の下、様々な現場で働く精神保健福祉士が、現状の何を悩み、どう考えているのか…、についてざっくばらんに共有して、アクションにつなげたいとの企画でした。神障害者総合支援法や、精神保健福祉法改正、生活保護などの現場の実態、仕事量に対する報酬が釣り合わないという実情を地域、病院それぞれの立場から、ため息も交えて自由に語り合いました。仲間のため息一つ一つをアクションへと変えていけるよう、こういう座談会も改めて大切だと感じた、学びの多い時間でした。

（京都府支部担当）

【リレー職場紹介】



京 P 子ちゃん

今号は…
地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立精神医療センター
中村有里さんです

Q1.職場のことや業務について教えてください！

私が勤務する大阪府立精神医療センターは、子どもから高齢者まで対応する 10 病棟、全病床数 473 床の病院です。枚方市駅が最寄駅のため交通の便もよく、大阪府下全域より通入院されております。

PSW は常勤 14 名（1 名育休中)。非常勤 3 名の大所帯です。数少ない思春期病棟があるため、約 6 年前に入職いたしました。

当センターの特色としては、①緊急、救急病棟②児童思春期病棟・外来・不登校の子の合宿入院③依存症拠点事業、入通院の受け入れおよび薬物依存症患者さんへのグループワークの実施）④処遇困難事例の患者さんの受け入れ⑤医療観察病棟および医療観察法通院患者さんの受け入れ⑥難治性患者さんへのクロザリル、ECT 治療の実施⑦在宅室、DC、作業療法センター設置です。

PSW の業務としては①病棟担当②退院後環境相談員③来所・電話相談⑥インテーク⑦入院時聞き取り⑧茶話会、家族教室等の講師⑨訪問⑩実習等教育、研修になります。

私自身は、思春期病棟、女子閉鎖病棟、緊急救急病棟、外来相談担当、実習担当を主に行っています。

思春期病棟に関しては、成人とは異なり親権者が決定権を持っているので、本人だけではなく家族とも頻繁に面談等し家族調整を行っています。

また 18 才以下の場合は障がい福祉サービスが原則利用できず、社会資源が乏しいのが現状のため退院後学校へ通えない子たちが利用できる居場所がなく、自宅にひきこもりになる子が多く、病状の不安定さも併せて再入院になる患者さんが多いのが現状です。学校に登校できている子は、学校とも密に連携いたしますが教育ベースの学校と、医療ベースの病院との連携には工夫が必要で学校側の状況も理解したうえで本人が安心して学校へ登校できるための工夫を一緒に考えております。

Q2. 仕事をする中でのやりがい、悩み、嬉しいことなどを教えてください！

当センターで初めて思春期病棟を担当し、虐待を受けた子どもから「なんで暴力があかんの？叩かれても嫌いになんかならないで」と母から身体的虐待を受けている子に言われたことはとても印象に残っています。虐待を受けた子どもたちが呈している精神症状の治療だけではなく、人間関係の構築における基礎的な部分等の病気以外のしんどさにも目を向けていく必要性を強く感じました。（病棟では SST や性教育のプログラム等を看護師中心で行っています。）

また当センターで、多数の依存症患者さんと関われたことで「やめたいけど、やめられない」まだまだ医療・福祉の中でも病気として認められていませんが、理解していただけるような試みを行っていかなければとおもいます。

Q3.最後に…仕事を通じて PSW として考えていることはどんなことですか？

精神障がいの方と医療は「切っても切れない仲」だと思いますが、どのくらいの方が医療を信じて安心して利用していただけているのかと疑問に感じています。

「本当のことをいうと、入院させられる。保護室にいれられる。」という声も患者さんから伺います。医療に、安心してかかっていただけるように、病院における PSW はどのような役割があるのか考え続けていかなければならないと思っています。

日々バタバタしていますが、患者さんから「病院に来てよかった」、「また疲れたら入院しにくるわ」と退院後も継続的な関係性が構築できたと思えたときにとても喜びを感じています。

最後に当センターでは現在非常勤の PSW を募集しております。興味をもたれた方がおられましたら、お気軽にご連絡いただければと思います。

【2015年度第2回役員会（第7期）】

日時） 2015年5月20日（水）19:15～22:10　場所　アステップむろまち
出席）石崎　大石　大塚　　斉藤　下村　知名　西村　橋本　藤井　松本　宮崎
欠席）川上
司会）下村　　書記）斉藤

詳細は下記URLよりご覧下さい
http://www.kyo-psw.org/member/kapsw/media/1/20152thyakuinkaigijigaiyo.pdf

【2015 年度第 3 回役員会（第 8 期)】

日時）2015年6月10日（水）　19:00～21:30　場所　アステップむろまち
出席）泉　大石　大塚　斉藤　下村　知名　西村　平山　松本　宮崎
欠席）橋本　東森
司会）知名　　書記）斉藤

詳細は下記URLよりご覧下さい
http://www.kyo-psw.org/member/kapsw/media/1/20153thyakuinkaigaiyo.pdf

【事務局からのお知らせ】

入会

1）中谷　由佳さん　　所属）（株）アットホーム園部事業所　グループホームゆきちゃんの家

2）物江　朱弥さん　　所属）　医療法人桜花会　醍醐病院　デイケア　デイナイトケア

3）細川　光明子さん　所属）（株）Nフィールド　訪問看護ステーション　デューン京都

退会　なし

7月13日現在会員数　355名

（所属機関変更）

岩橋　真帆美さん　所属）社会福祉法人　ミッションからしだね
京都市東部障害者地域生活支援センター　からしだねセンター



ほっとひと息コーナー



数年前から「江戸しぐさ」の話題を聴くようになりました。江戸時代から口伝で伝わる庶民のマナー「江戸しぐさ」を現代に活用しようというもので、一部教科書でも取り上げられるほどですが『江戸しぐさの正体　教育をむしばむ偽りの伝統』（原田実・著）によれば歴史的な根拠は皆無で、昭和に作り上げられたものであると喝破されています。

「根拠はなくとも中身はいいことを言っている」

「江戸時代に本当にあったかのようなウソをついて、道徳の教育ができるのか」

いずれの意見を持つにしても、その背景を熟知した上で判断したいものです。

私など猜疑心が強い方ですから「水にきれいな言葉をかけるときれいな結晶ができる」といった類の話を聴いただけで「これ科学的根拠あるの？　新手の詐欺じゃ…」といちいち疑うクセがあり妻に呆れられています。それでも今は手元の端末で簡単に検索のできる時代。どんなものでも一度軽く疑ってみて、確認し、真実を追求する姿勢もいいんじゃないでしょうか（妻に離縁されない程度に）？



（田中圭）

【編集後記】

7月の台風ではみなさま大きな被害はなかったでしょうか？被害というほどではありませんが私の職場では豪雨のたび確実に雨漏りし紙オムツで対処しています。壁紙にはカビが生え、天井裏ではネズミの死骸が腐って悪臭を放ったりするので「中世ヨーロッパを思わせる診療所」とオシャレに解釈するようにしています。（田中圭）

私の職場は、昨年のお盆休み中によっぽど室内が暑くなったのか、冷蔵庫が故障して中のものが全てダメになってしまいました。冷凍庫のアイスクリームもドロドロに…。今年は果たして無事なのか、ドキドキしながらのお盆明けになりそうです。（北山紗恵子）

京都精神保健福祉士協会　9月例会　申込み用紙

テーマ ：「相談支援事業所について、見たい！　知りたい！　深めたい！！」
日 時 ： 2015年9月25日(金) 19:00～21:00
場 所 ： キャンパスプラザ京都　第1会議室
（〒600-8216　京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939）

FAX番号:075-703-2705

（京都市北部障害者地域生活支援センターらしく　行）

＊お間違いのないように、お願いいたします。

お名前(ふりがな):＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご所属:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご連絡先:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※相談支援事業について分からないこと、聞いてみたいことがあればご記入ください。:

申込み締切日は、2015年9月18日(金)です。

たくさんの方のお申込みがいただけるように会場確保をしておりますが、
人数が多い場合は、締切前でもご遠慮をお願いする可能性がございます。
あらかじめ、ご了承ください。